

<今日の説教のポイント　マタイによる福音書 20:1～16>

① 「ぶどう園の労働者のたとえ」

「夜明けから」労働者を探しに行く主人—9時、12時、3時、そして作業終了1時間前の5時にも！

賃金の約束　夜明けから働いた者「一日につき1デナリオン」(妥当な額)
それ以降の者「ふさわしい賃金」

→結局すべての者に「1デナリオン」が支払われた　それは不公平か？

② でも実は、「不当なこと」は何もしていない主人

「一日につき一デナリオン」の約束は果たされている

「ふさわしい賃金」(4節)を勝手に解釈したことから起こった期待と欲、そして怒り

働きに見合っていないなくても 「同じように支払ってやりたいのだ」

→このようなことが起こるところこそが「天国」

このように、長く神を信じ、熱心に労苦して働いてきた人と、最後にようやくやって来て、大した働きもできていない人にも、同じように恵みを、救いを与えたい、と言って下さる方こそが「神」

それは不公平なのでも、不当なのでもない。神の自由に基づく神の恵み　「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり　わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる」(イザヤ書 55:8)

③ 私たちは、いつから信じて、どれだけの働きをしてきた者か？

けれども、そのことによって神は恵みを分配されない。

どれだけ働いたか、働けなくなったかで、恵みと救いは左右されない—だからこそ生涯にわたって、安んじて寄りすがれる神

このたとえ話に表された、神の「気前のよさ」に救われている私たち。そして、神の「気前のよさ」に救われるはずの人たちがいる。